

令和3年度東北がんネットワーク化学療法専門委員会

事業計画

1) 委員会の開催

令和3年度化学療法専門委員会は年度内に開催する方向であるが新型コロナウイルス感染症対策を最優先とし状況を見ながらWEB会議等の形式を検討する。

2) 標準プロトコールの活性化・Tumor Boardの発展的展開

元年度、東北臨床腫瘍研究会内に、医師・薬剤師・看護師で構成されるワーキンググループを発足させるため、その人選等を進め発足を目指していたが2月からの新型コロナウイルス感染症の拡がりのため動きを一旦止めなければならない状況になった。ワーキンググループにおいては掲載中のプロトコールのチェック、新規療法の採用検討を行い随時現状に即して最新のレジメンを取り込んでいけるようにOn Timeでの対応を可能にしていく方策を探る。Tumor Boardについては、これまでの症例検討の場としての機能から今後大きな流れとなるがんゲノム医療に特化していき、遺伝子パネル検査適応症例相談メール会議システム等への発展的展開を目指す。これに伴い、日進月歩の医療環境に対応したプロトコール等の在り方についての大枠と指針を検討するためのコアメンバーによる会議の開催（WEBによる）を図る。

3) 東北大学がんゲノム医療中核拠点病院機能強化事業への協賛

元年度には宮城県において東北大学病院、宮城県医師会とともにがんゲノム医療従事者養成研修事業をスタートさせた。また、2年度は東北大学病院において、表記の事業として同様の研修会を東北地方の拠点病院等がんゲノム医療に携わる医療従事者に向け展開した。化学療法専門委員会においてもがんゲノム医療への取り組みはファーストプライオリティと位置づけるものであり、同事業への協賛・協力を図り、東北地方全体に広がりを図っていく。

4) 令和3年度化学療法専門委員会事業費計画（支出先 東北臨床腫瘍研究会）

- ・症例検討システム／プロトコール申請審査システム運営管理費

@ 1ヵ月 18,700円×12ヵ月=224,000円

- ・専門委員会・T-COREカレッジ開催等経費 80,000円

- ・がんゲノム医療従事者養成研修会協賛金 350,000円

合計 654,000円